

## 令和7年12月定例教育委員会会議録

令和7年塩尻市教育委員会12月定例教育委員会が、令和7年12月25日、午後1時30分、塩尻総合文化センター2階大会議室に招集された。

### 会議日程

#### 1 開会

#### 2 前回会議録の承認

#### 3 教育長報告

- 報告第1号 主な行事等報告について  
報告第2号 1月の行事予定等について  
報告第3号 後援・共催について  
報告第4号 学校運営協議会委員の解任及び任命に係る専決処分報告について

#### 4 議事

- 議事第1号 塩尻短歌館管理規則の一部を改正する規則  
議事第2号 学校職員の指導上の措置について<非公開>

#### 5 閉会

##### ○出席委員

教育長	佐倉俊	教育長職務代理者	碓井邦雄
委員	甕剛	委員	八島思保
委員	小松裕美		

##### ○説明のため出席した者

こども教育部長	百瀬一典	交流文化部長	上條史生
こども教育部次長 (こども未来課長)	竹中康成	交流文化部次長 (社会教育スポーツ課長)	上村英文
学校教育課長	上條崇	平出博物館長	小松学
教育施設課長	五味克敏	市民交流センター長 (図書館長)	矢澤昭義
保育課長	塩原彦	文化財課長	古畑比出夫
国民スポーツ大会 推進室長	島峰行	主任学校教育指導員	小林順一

##### ○事務局出席者

教育企画係長 浅川忠幸

## 1 開会

**佐倉教育長** 皆さん、こんにちは。先ほども少し話題になりましたが、今日はクリスマスですが、市内の小中学校は、既に 24 日、今日 25 日から冬休みに入っている学校がほとんどであります。各校のホームページを見させてもらうと、冬休み前、各校の給食はフライドチキンやケーキなどのクリスマス献立が出ていました。そのほかの 12 月の給食を見させてもらうと、カボチャだんごなどを味わう冬至献立とか、ブリの照り焼きなどを味わうお年とり献立となっていて、冬を感じる献立が工夫されて提供されているなと思って給食を見ました。各校の給食の先生方が思いを込めて作られる自校給食により、本当に子どもたちは身も心も温まるとともに、季節を感じることができて幸せだなど、そのようにホームページを見て感じたところでございます。

それでは、ただいまから 12 月の定例教育委員会を開会いたします。よろしくお願ひいたします。

## 2 前回会議録の承認

**佐倉教育長** 次第に従いまして、2 番、前回会議録の承認について、事務局からお願ひいたします。

**浅川教育企画係長** 前回 11 月の定例教育委員会会議録につきましては、既に御確認をいただいております。本会議終了後に御署名をいただきますので、よろしくお願ひいたします。以上です。

**佐倉教育長** よろしいでしょうか。

[「はい」の声あり]

**佐倉教育長** それでは、そのようにお願ひいたします。

## 3 教育長報告

**佐倉教育長** 3 番、教育長報告に移ります。私から 2 点報告をさせていただきます。

1 点目です。12 月初旬になりますが、宗賀の床尾中央遺跡の発掘調査現場を小松平出博物館長に案内をしていただきました。縄文中期、古墳時代、平安時代の 3 つの時代にわたって住居跡、集落が見つかっており、発掘現場からは、時期を変えて 70 軒以上の住居跡が折り重なるように造られた様子がよく分かりました。小松館長からは、かつては近くに川があり、山から少し離れたところにあるため日当たりもよく、住む場所としてよかったです、とのお話を伺いました。

また、現場で多数出土した土器とか石器、かまど跡、また、縄文時代の埋葬に関係していると考えられるそうですが、埋がめなどの出土品の説明をいただき、一つ一つの営みが現代の生活につながっていることが本当によく分かりました。

同時に、小松館長の説明を聞きながら、私も発掘現場というところをしっかりと見たのは初めてだったので、住居跡とか出土品の一つ一つから、そういう事実から分析して知る学問的な深さとともに、ロマンを感じられるなと思ったところです。

宗賀小の子どもたちをはじめ、現場を見学した子どもたちもいると思いますが、来年 2 月には平出博物館で速報展として調査結果が紹介されることがあります。また、平出博物館ではインスタグラムに写真をアップしていただいているので、発掘時の様子とか出土品の様

子がとてもよく分かる写真が掲載されています。子どもたちにはぜひ、地域の歴史を知ることのできる貴重な考古資料を実際に見て、感じたり考えたりする機会にしてほしいなど、そのように感じたところであります。

2点目です。12月2日に広陵中学校で、社会科の授業の一環として、百瀬市長を招き、「市長、私たちの声を聞いてください」と題した意見交換会が開かれました。私は意見交換会当日に参加することができませんでしたが、事前に行われた塩尻市の予算配分を考える授業の参観をしてきました。生徒たちが、人口減少、少子高齢化、財源の不足という課題に直面している塩尻市の今を自分ごととして捉え、自分の調査結果や思いをもとに対話を重ねていく中で自分の意見を更新して仲間と合意形成していく姿を見ることができ、頼もしさを感じたところであります。

例えば、子どもたちの意見として、病院はないけれど、近くにまつもと医療センターがあるから病院なくてもいいかなという意見とか、第2子以降の保育料無償化とか、給食費の公費負担の継続は子育て世代には必要だという意見が出たりとか、塩尻市をさらに魅力的にするために、もっと観光、商業、農業に力を入れたいというような、私たちの庁内会議や市議会で出てくるような言葉が子どもたちから出てきたことに驚き、当事者意識を持ったリアルな学びをしているなど感じました。そのようなリアルな深い学びをしてきたことで、生徒たちの思いが高まって、今回の市長提言につながったのだと思います。

当日は、生徒一人一人から市長に対して、思いや提言をつづった手紙が手渡されました。私も手紙を全部読ませていただきましたが、その手紙の中では、今回地方自治の学習を通して限られた財源を配分する難しさや、議会や市長の仕事の大変さを感じたということなどに加えて、持続可能なまちの実現のために、自分たちができること、今できることを、例えば、税金で買っていただいているChromebookを丁寧に扱うとか、落ち葉掃きをするとか、ごみ拾いをする、そういうことをまずやらなければいけないというふうに感じていることと、将来に向けて、将来は塩尻市に何らかの形で関わりたい、選挙権を得たら必ず投票に行く、友達も説得して投票に行かせる、都会に行っても戻ってきたい、そういうことをできまちにしていきたい、現状を変えられる人になりたいという、自分ごととして受け止めているなという意見が手紙の中にたくさん書かれていました。そんなことからも、今回いい学びができるなど感じたところであります。

以上で、私からの報告は終わります。委員の皆様から御質問、御感想、ほかの行事等の報告など、御発言がありましたらお願ひいたします。

**碓井教育長職務代理者** 私から2点、お願ひします。

1点目は、11月26日の塩尻市校長会において、私たち教育委員が自主的に研修してきた不登校関係の内容を発表させていただいたことについてです。当日の校長会では、冒頭の教育長指示伝達の中に不登校は喫緊の課題である等の内容もあったわけですが、その後、私たち教育委員が昨年度から調査研究してきた「不登校の現状から見た塩尻市の子育て支援について」を発表させていただきました。校長会では時間が厳しい中、事務局で調整いただいて、私たちの時間を取っていただき、本当にありがとうございました。

私たちが発表させていただいた内容ですけれども、八島委員からは「不登校の歯車」というタイトルで、山梨県の取組を例にデータを交えながら、25人学級や不登校からつながっていく問題点等について話していただきました。小松委員からは、保護者の立場から見た安心

できる楽しい学校等について話していました。私からは、子どもの成長に合わせた教育機関や市の事業等を学校の先生方は情報としてしっかりとつかんでいただいて、それを必要に応じて支援に生かす取組等について話させていただきました。甕委員は御都合で欠席されましたが、甕委員から頂いたメッセージの、自ら行動する知恵と勇気についても、校長先生方にお伝えをいたしました。

市内の不登校の児童生徒の増加率は、かなり厳しいものがあると思います。私たち教育委員も応援しますが、学校においては、市教育委員会の様々な事業等を生かしながら、校長先生方がリーダーシップを一層發揮していただいて、子どもたちがそれぞれの個性に応じて自立をし、未来をよりよく生きることができるような教育をさらに推進していただくことを願っております。

また、25人学級については、今月中旬頃でしたか、県教育委員会が、来年度から小学校1年生で行って、2027年度以降2年生にも広げていくという報道がありました。このことについては、私たちも9月の総合教育会議で提案させていただきましたので、期待したい取組だと思っております。25人学級については、私たちの研修の中で八島教育委員から提案いただいた視点ですので、八島教育委員、もしコメント等ありましたら、後で結構ですのでお願いできればと思います。

それから、2点目は、リーディングDX授業の公開授業についてであります。私、11月26日午後に行われた、宗賀小学校のリーディングDX授業を見せていただきました。当初は2年生の授業を見せてもらおうと思っていましたけれども、インフルエンザの影響で中止となってしまって、急遽5年生の授業を参観させていただきました。5年生の授業は、社会科の自動車を造る工業という単元で、公開授業は、自動車会社のコマーシャルを作ろうというものでした。

子どもたちはタブレットを使って、本授業の課題であるCM作りづくりを4人グループで進めていく形でしたけれども、個別の学習時間が結構多かったかなと思います。私が見ていた子はタブレット操作にとても長けていて、コマーシャルで使うイラストを見つけてきたり、絵もタブレット上で自在に描けたり、そんなことまでできて、本当にすごいなと思いました。ただ、その子はその時間、タブレット上で絵を描いている、そういう時間がほとんどで、この授業、つまりこの社会科の授業で身につける力は何かなどいうふうに考えたときに、その辺がぼやけてしまっていたのではないかということを感じました。

ICT機器を使った授業は、個別に学習する場面が多くなるというように思いますので、全体的なねらいが持ちにくくて、そうなってしまうのかなということも思いましたけれども、いずれにしても、ICT機器を活用して、この授業でどのような力をつけるのか、シンプルに分かりやすくしていくことが必要なのではないかということを、授業を見せていただいて私は思いました。その辺について、教育センターの先生方も参観されていましたので、御見解等がありましたら、教えていただければありがたいと思います。以上です。

**佐倉教育長** 最初に25人学級のことだけお願いします。

**八島委員** 感想をということですので、手短に。19日の新聞記事報道には非常に驚きました。

「不登校の歯車」は、複数の歯のかみ合いにいたのだと感じました。動力が伝達し合っていることに、期待を感じております。来年度からであり、足早に進めなければなりませんが、担当課の皆さんには大変御苦労も多いかと思いましが、今後の目覚ましい成長を期待し、きめ

細やかな対応を目指して、ぜひ頑張っていただきたいと思います。以上です。

**佐倉教育長** リーディングDXの関係で、教育センターのほうでお願いします。

**小林主任学校教育指導員** リーディングDXスクール授業の宗賀小学校の公開について、教育センターでも参加をさせていただき、その後、3人でミーティングなどを行なながら、今後の塩尻市のリーディングDXスクールを通した学びについて考えてきたところであります。

まず、碓井職務代理がおっしゃいましたように、小学校2年生は、おもちゃの作り方を説明しようという主題で、1年生に先輩としておもちゃの作り方を説明書で説明できるようにしようというねらいで、説明書作りをタブレットで作る予定でした。実は、この日は授業ができませんでしたが、後日行われました。参観した島津指導主事によると、実際にグループの中で、自分の作った説明書を使って仲間が作れるかどうかを試したところ、「難しい、作れない。」「どこに穴を開けたらいいのかわからない。」というような声が出てきたようです。このようなリアルな子どもたち同士の対話をもとに、もう一度、説明書作りをよりよいものにしていくという学習がなされたそうです。

授業者の齊藤先生は、1学期に授業をやったときに子どもたちから、「先生、次何やるの」という質問がたびたび来たというふうに感じていましたが、この単元は、子どもたちが何を自分がやろうとしているのか見通しを持っていたことで、「次何やるの」という言葉が大変少なかったという印象を持ったそうです。

続いて、当日の公開がありました5年生ですが、5年生ではCM作りに取り組んでいました。自己課題がすわっていたことで、主体的に取り組む姿が見られる単元計画ができていた。実際の授業では、タブレットや紙のコンテなどを使いながら自己課題に向かっていました。グループを組んでいたので、もう少し時間をとってグループ内で対話をしながら、より良いものに向かうための活動をしてもよかったです。また、碓井職務代理がおっしゃったように、これは社会科としてどんな力がついている学習なのか、課題意識をもったところです。

このような点から、この学級では、社会科的な力をつけて、よりCMの中身を工夫していくことに取り組んできました。一昨日、トヨタの自動車会社に出来上がったコマーシャルを送ったそうです。感想の一部を読ませていただきますと、トヨタ自動車からは、「どのコマーシャルも工夫を凝らしており、その探究心に感動いたしました。皆様が考えてくださったキヤッチフレーズは、まさに弊社が大切にしていることであり、オンライン授業を通して、皆さんに届いていてことに胸が熱くなりました」という御返事を頂いたということあります。

CM作りという大きなテーマに向かう中で、この時間では一体何をやるのか、どんな課題があるのかということを、社会科のつける力と合わせて、今後、教師が設定していく工夫が求められると感じました。

この2つの授業の中から、タブレットなどのICTを使うことによって、振り返りや自己課題を子どもたちが自ら据えることができ、主体的な学びにつながることが分かってきたように思います。一方で、その教科の知識や技能、見方や考え方を深めていくためには、教師の側が単元計画や授業づくり、1時間の学習課題などに研究を進めていく必要があるということを感じているところです。

まとめると、1つは、道具としてのタブレットは定着してきていますので、一層スキルを

高めることが求められると思います。2つ目は、教科でつける力をもとにした授業づくりが大事になるということです。3つ目として、教師として、これまで長年にわたって大切にされてきている教師としての不易な役割を踏まえ、子どもと共に学び続ける教師の姿勢を大事にしていきたいと考えました。以上です。

**佐倉教育長** よろしいですか。

**碓井教育長職務代理者** ありがとうございました。リーディングDXの関係ですけれども、小林主任がおっしゃったような方向でぜひICTを道具として使って、教科等の特性に応じて、情報活用能力等を伸ばしていくように授業をさらにつくっていき、そのような力をぜひ各校で子どもたちにつけていってもらいたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

**佐倉教育長** よろしいですか。そのほかの委員の皆さんからお願ひします。

**八島委員** 私は今回、片丘小学校と西小学校の2校において、がん教育の授業を拝見させていただきました。2006年がん対策基本法が制定され、2014年より文部科学省でもがん教育の導入を決めております。令和2年より、小学校では現行の学習指導要領の改訂を受けて、がん教育は必修化されています。ですが、実際は、がん教育に対し、各学校や地域では、それぞれに温度差があと感じているため、今回、視察をさせていただきました。

がん教育の目標は2つです。がんを通して健康や命の尊さに気づき、がん患者やその家族、がんと向き合う人々に关心を持つこと、そして、健康な社会の実現に努めることができるよう留意すること、と文部科学省は述べています。大人にも重い話である「がん」について、子どもにどのように伝えていくのか戸惑いもあると思います。

怖いことを教えてどうするのか、「がん」を扱うことに、いささか及び腰になってしまふ気持ちも理解できます。今回2校で行われたがん教育では、子どもたちの心の揺れを想定しながら、事前にアンケート調査や事前学習も行われていました。

授業では、2人に1人は生涯「がん」となり、死亡原因の1位であること。「がん」は感染しないこと。HPVウイルスワクチン接種方法や生活予防、がんの相談情報センターの紹介などを講義されました。また命の大切さについても語られました。

今回授業してくださった講師、がんサポートおむすびの会、代表小口さんは、自身が「がん」経験者でいらっしゃいます。命の尊さを踏まえ、大切なのは今日の自分。自分ごと捉えて、楽しく生きようと締めくくられていきました。

子どもたちの感想には、「がん」になっても諦めずに生きたい。「がん」の人に会っても普通に遊びたい。友達を大事にしていきたい。自分らしく生きたい。命の時間は限られているから時間の使い方を考えていきたいなど多くの感想がありました。

がん教育とは、なぜ「がん」になるのか、の予防医学だけではありません。統計上では2人に1人が「がん」になる現代では、人生の関わりの中で、必ず人は身近に「がん」が存在するということです。「がん」と向き合うことは、人と向き合うことでもあります。

がん教育は、道徳や倫理であったり、性教育や保健体育であったり、理科や生物でもあります。様々な分野の共通であり、決して死を連想させる教育ではありません。

私は職業柄、「がん」患者及びご家族に日常的にお会いする機会が多くあります。時には御家族より、「がん」は感染しますか、触っても大丈夫なのですか、など質問されることもあります。大人の認識や大人の不安から連想は作られていきます。大人も子どもたちと一緒に、学び直しをしていくことも大切であると感じております。

また冒頭で教育長からのお話にございましたが、当事者意識を持ち、リアルな学びを繰り返し行っていくことで、市長宛のお手紙の中に書き込まれていたような、観光や農業に力を入れていきたいなど、生徒が自分ごとに照らした思いへとつながったと感じます。しかしながら、私は先ほど少し違和感を覚えました。大人の想いや感覚が自然と導く発言となり、常日頃から子どもに伝動していき、正しいと思われる答えを発する習慣が備わっているのではないか、とも感じました。教育はいつでもゼロベースであってほしいと願っておりますし、教育や命、人生史において、大人の色で子どもを塗ることのないよう、学び合える本市の教育であってほしいと感じました。以上です。

**佐倉教育長** ありがとうございます。では続いて。

**小松委員** 私からは報告を3点させていただきます。

1点目です。11月28日に塩尻東小学校の3年生を対象に行われた「いのちの輝き教室」を参観してきました。講師は松本市の助産師の方で、命の始まりから赤ちゃん誕生までの様子を詳しく教えてくださいました。子どもたちの反応はとてもよく、様々な問い合わせにいろいろな答えが出ていましたし、助産師の話に驚きの声が何度も上がっていました。

最初に、命の始まりの大きさはどれくらいかとの問い合わせに、指や手のひらで思い思いの大きさを表現する子どもたちに、このような黒い紙が配されました。この紙のどこかにあるから探してみてと言われ、子どもたちは顔を近づけたり、手で触ってみたり、紙を傾けたりと、一生懸命探していました。これは、蛍光灯の明かりに照らすと分かる程度の小さな穴が開いていました、そのサイズは0.2ミリだそうです。とても小さいことを、子どもたちは実感していました。

それから、受精卵が細胞分裂を繰り返しどんどん細かくなっていく様子や、体がつくられていく様子を写真で見て、「初めは、人ではなく恐竜みたいだ」ですか、「しっぽがある」などと、子どもたちはいろいろなことに気がつきます。助産師の、赤ちゃんはどれくらいの間お母さんのおなかの中にいると思うかとの問い合わせに、3年、1年と答えが出来まして、「3年もおなかにいたらお母さん大変だ」とのやり取りに、心が和みました。子宮の模型や赤ちゃんの人形などが幾つも用意されていて、2か月ではこれくらい、3か月、6か月、10か月ではこれくらいと、大きくなる様子が、平面ではなく立体的に確認できたので、理解しやすいものでした。

また、おなかの赤ちゃんの心臓の音を聞いて、心拍の速さの秘密も教えてもらいました。助産師は、「お母さんも頑張っているけれど、赤ちゃんも自分で頑張って体をつくり生まれる準備をしているのだよ、すごいよね、みんなもすごいのだよ」とおっしゃっていて、子どもたちに、自分は頑張って生まれてきたことを伝えました。

いよいよ出産の場面では、骨盤の模型と赤ちゃんの人形を使って実演され、子どもたちは真剣にその様子を見ていました。赤ちゃんの頭の骨は4つに分かれています、少し重ねることで頭を小さくして隙間をとること、陣痛のたびに赤ちゃんは少しずつ体を回転させ、頭、肩と順番に出てくることなどの説明を聞きながら、子どもたちからは、「赤ちゃん頑張れ、頑張れ」と応援の声が自然と出てきて、無事に生まれると、皆、大喜びしていました。

その後、首の座っていない新生児の人形を抱く体験があり、恐る恐る抱いている子、慣れた様子で上手に抱いている子など様々でしたが、どの子どもも、顔を見ると、とても優しい表情をしていました。命がどのように始まり、自分はどのように生まれてきたのか、たくさ

んのことを学ぶことができた、よい授業だったと思います。私も話を聞きながら、自分の妊娠時や出産時を思い出し、温かい気持ちになりました。

2点目です。12月14日に東地区センターで、公民館主催のミニ門松作り講座が開かれ、参観してきました。この講座は小学生を対象にした講座で、お正月の由来や門松の由来について学びながら、自分で門松を作り、新年を迎える準備をするというものでした。館長が講師となり、門松は、家に幸せをもたらす年神様を迎えるため、目印となるように玄関に飾ること、しめ飾りは年神様の居場所であること、門松の材料に使われる竹や松、わらなどにはそれぞれに意味があることなどを、小学生にも分かりやすく説明してくださいました。

土台となる太い竹や中に立てる3本の細い竹は全て、館長と公民館主事の方が片丘の山から切り出した竹を、一つ一つ必要なサイズにカットして準備してくださいました。実際に、機械で竹を斜めに切る様子も見せていただきました。作り方の説明をしっかりと聞いた子どもたちは、竹を選び、土台に砂を入れて、3本の竹を固定し、松やナンテンの実や葉を挿し、扇と水引を土台に貼って飾りつけ、それぞれ個性豊かな門松を作り上げました。ミニとはいえ、高さ約40センチにもなり、存在感のある大きさでした。

また、付添いの保護者分の材料を用意してくださったので、私も一緒に作らせていただきました。バランスよく松やナンテンを配置するのは難しかったですが、自分で作るというのは初めての体験でしたので、作る楽しさと達成感を味わうことができました。今回の講座は、ただ作るだけでなく、門松の由来や意味を学ぶことで、より深くお正月を理解できた有意義な講座となりました。

3点目です。本日、同じく東地区センターで公民館主催の餅つき大会が行われ、娘2人と参加してまいりました。大人と子ども合わせて40人ほどが集まり、きねと臼を使って作る本格的な餅つきをして、その後、出来立てのお餅を頂きました。子どもも大人も順番にきねで餅つきをしまして、大変な力作業だということを体感しました。出来上がった餅は、機械で作ったものよりも柔らかく滑らかで、とてもおいしいものでした。お代わりをする子どもも多くいました。たくさんの笑顔が見られた、楽しい餅つき大会となりました。以上です。

**佐倉教育長** ありがとうございました。続いてお願ひします。

**斎委員** 2025年の最後の定例会議ですので、よろしくお願ひいたします。一年間ありがとうございました。

毎年この時期に発言させてもらうことなのですから、来年度の小学校への新入生に対する、黄色い帽子を無償で配布しますということなのですから、これは毎年希望者に配るということなのですが、ぜひ全員かぶってほしいなということで、毎年伝えてきましたが、今、何パーセントくらいの人が希望されるかというのは分かりますか。

**上條学校教育課長** 確認します。

**斎委員** 見守りしていると、黄色い帽子はすごく目印になって、ドライバーの方からもよく見えると思います。小さい子に黄色い帽子はとても重要な目印となりますので、ぜひ勧めてほしいと思います。

もう1つ、質問なのですから、数年前には中学生がスマホを持っているペーセンテージは多分7割くらいだったと思うのですが、今現在はどのくらいの所有率か、分かりますか。

**上條学校教育課長** それもまた確認します。

**斎委員** 何故この質問をしたかと言いますと、少し前の新聞に、18歳未満のAI性的画像被害

という記事が載っていました、性的ディープフェイクの相談件数が毎年増えているとの事です。その中でも、中学生による被害届が全体の50%以上を占めており、また、その加害者の約40%が同じ学校の生徒であるらしいです。生成AIが発達するにつれて、いろいろな機能や効率がよくなってくる一方で、そういう被害が多くなってくるということは、直接不登校に関わるかどうかも分からないですけれども、傷つけられてしまう人がいるということ。これはすごく大事なことだと思いますので、塩尻市にそのような問合せや事例があるかどうか分かりませんけれども、恐らく、これから先、問題視しないといけないところではないかなと思っています。

併せて、教員の盗撮事件とか、毎日聞くようなニュースがありますので、そういう部分について、児童生徒も含めた勉強会や講演は引き続き行なななければいけないのではないかと思いました。

次に、塩尻市のことについてですが、先日、毎年行われているこどもしおじりを少し見学に行かせていただきました。毎年たくさん参加者がいて、とてもにぎわっていて、毎回見ても、すばらしい取組だなと思っています。例えば、仕事をしてお金を稼いで銀行に預けるという仕組みのなかで、お金の稼ぎ方というのは、例えば大人であれば、競馬や競輪があつたりとか、賭け事があつたりしますけれど、そこまでやれとは言わないのですが、宝くじを買って抽選会をして当たるとか、そういうことがあっても面白いのかなというふうに思つたりもしました。本当にいいかどうかは置いておいて、そういう社会があるということを知つてもいいのかなというふうに思いながら見ていました。

また、先日、西小学校の学校運営協議会に参加してきたのですけれども、その中で委員の中からいろいろな問題が出てきました。先ほどのICTの話の中でも、あまりにもタブレットを使って文章を作ることが多すぎて、実際に書いて感想文を書けといったときに、なかなか書けないでいるというところを問題視する保護者の方がいらっしゃって、そうなのかなということも聞いていて思つたのですが、やはり書くことも大事なので、教材としてタブレットの使用も考えていいかないといけないのかなと思いました。

また、1年生がポップコーンを作る授業で、火のつけ方が分からぬといふことがあり、家ではIHというか電気で使つてるので、実際にガスを使った火のつけ方が分からぬといふところから始つたみたいです。なかなかそのようなことを、コミュニティ・スクールを使つながらでも、大人が入つて勉強させるということに関してはとてもいいことだと思いました。

昨年は25人学級をずっと私たち一緒に勉強してきましたけれども、これから先は、これもずっと言つてゐるコミュニティルームを必ず学校に一つつくつていただいて、地域の大人がいつでもそこにいて、子どもたちの息抜きができる場所をどうしてもつくつてほしいなということを改めて感じた次第であります。

それから、私、何年かホームページについて、ずっと話をさせてもらいましたけれども、実は勝手に、何とか賞みたいなものをつくつてみたのです。今年一年ホームページ賞みたいな。あと、地域活動賞とか、給食だより賞とか。どこどこの学校というと、後に残してしまつうと問題になつてしまふけれど、私がすごく好きだったのは、片丘小と塩尻中学校と檜川小中学校が好きでした。地域活動としては、八島委員が行つてゐるダスク、それと西部中の孫の手プロジェクト。この2つは抜群によかつたかなと思っています。それから、給食だ

よりについては、片丘小と吉田小、それから両小野中は、調理の方法ではなくて、素材についてもものすごく細かく書かれていたり、先ほどのカボチャの話、冬至というのか、その時期のものの話をずっと書いてあったりですとか、とても勉強になるなと思いながら見させていただきました。トータルで、こういう賞をうちうちでつけてあげて、先生たちに返してあげることも、作っている側としてはすごくいいのではないかなというふうに思いながら、今年一年を総括してみた次第であります。

最後に1点聞きたいことがあります。塩尻市みらい探究アワードが、1月31日に行われますが、その応募開始が10月から12月にあったと思います。つい先日、その書類審査の結果通知を出したと思いますが、審査を通過したのは、たしか8組でしたよね。これはどのくらい応募があって、どんな方が審査をされたか、言える範囲で構いませんので教えてください。

**上條学校教育課長** みらい探究アワードにつきましては、来年1月31日に、会場は都市大塩尻高校で行います。募集については、まず中学校部門については、3つの枠に対して3つありました。高等学校については、3つの枠に4つございました。一般部門については、2つの枠に2つということで、発表枠は個人も含めまして計8団体が当日発表されるということが決まっております。

キャリア教育を進めていく中で、キャリア教育委員会を立ち上げており、委員会で今回、高校の部門が3枠に対して4つ応募がありましたので審査をしました。中学校、一般については枠内に収まっているので、そのまま当日発表していただくという形になります。

**壇委員** ありがとうございます。この探究アワードは初めてではないですか。

**上條学校教育課長** 今年初めて開催いたします。

**壇委員** 初めてなのですね。この発表の様子というのは、Y o u T u b e等での配信予定はあるのですか、特ないですか。

**上條学校教育課長** Y o u T u b eはありませんが、後の協議会でも報告しますが、このようなチラシができていますので、できれば当日見学に来ていただければ思います。

**壇委員** ありがとうございます。最後に、私が今年いろいろな方とお話をさせていただいた中で一番印象に残っている言葉があります。それは小林先生と話した話なのですが、少し道端で話をさせてもらったのですが、今、高ボッチ教室を西小に置いてありますが、特別支援ルームというのですか、北部にはないのですよね。そしたら、どうやって解決すればいいのかなという話の中で、私がやっている事業とコラボできたらいいなということで、バスを教室にして、移動教室をつくってみたらどうかみたいな話をさせてもらったことがありました。

すごく面白いなということで、それだったら別に箱をつくらなくても、バスを教室にして、必要な学校に必要な日に必要な人数だけ行けば面白いですし、また、校外活動というのか課外活動というのか、そういうことにもすぐに対応できるという、すばらしい教室ができるのではないかなど。何年先になるか分からぬですけれども、今年、私が一番ときめいた言葉というか、すごい発想だなと思って勉強させていただいたということが、今年一番残っています。また、この先どうなるか分かりませんが、現実的になれば面白いなと思っていますし、バスに乗りたいから学校に行くという子が出てくるかもしれない、夢があるなと思って報告させていただきました。以上です。

**碓井教育長職務代理者** 3点お願いしたいと思います。1点目は、甕委員が先ほどおっしゃられた、新1年生への黄色い帽子の配布についてであります。希望者は、11月28日までに申し込むことというお知らせを11月下旬に市のLINE情報で見ましたので、申込みはもう終わっているかなと思います。黄色い帽子をかぶって登校することについては、1年生と分かることでデメリットもあるかと思いますけれども、私は甕委員と同じように、黄色い帽子をかぶるメリットのほうが多いと思いますので、できるだけかぶってもらう方向で、市教育委員会や学校が働きかけをしていただきたいという希望です。

2点目は、給食の無償化の関係についてであります。小学校の給食が来年度から無償化される方向という報道がされていて、私、個人的には、給食の無償化より25人学級をさらに先に進めてほしいと思っているのですけれども、それはそれとして、信濃毎日新聞の記事には、塩尻市は、県内の市の中で最高額の平均月額6,660円がかかっていると出ていました。これは、国の基準額をかなり上回っているかなと思います。

先月、片丘小の訪問のときに給食を食べさせていただいて、そのときに実費をお支払いした感じでは、平均月額は、報道されたそこまでいかないような気がしているわけですけれども、カウントの仕方がいろいろあるのだろうというふうに思っていますので、協議会の折にでも教えていただければと思います。

また、報道は無償化というふうに出ているのですけれども、今後の塩尻市の方向についてはどうなのか。無償化を実施する場合、国の基準と差額についてどのようにするのか。保護者負担を求めるかのどうか、その辺は決まっているのかどうか、それらについて教えていただきたいと思います。

それから3点目は、市の公共施設の削減についてであります。12月初旬の市民タイムスに、市の公共施設削減についてアンケートを取ったら、68%が賛成で、市の整備計画に反映させていくという記事が載っていました。記事には、市全体の公共施設のうち、学校関係は35%で、児童生徒数の減少が見込まれる学校の統合再編についても触れてありました。

また、12月中旬の信濃毎日新聞には、両小野地区の教育について、児童生徒の減少というようなことを中心に、在り方検討委員会を設けていく旨の記事も出ていました。児童生徒数の減少と統合再編を含めた学校運営等については、非常に難しい問題だというふうに私自身は認識しているのですけれども、ただ、現実には、考えていくべき課題だと思うわけで、その辺、今後どのように進めていくのか、方向性が出ていれば、教えていただきたいと思います。以上、よろしくお願ひいたします。

**佐倉教育長** では、2点であります。お願いします。

**上條学校教育課長** まず、給食無償化につきましては、新聞報道で承知かと思います。今現在、国の全国平均になりますけれども、市と乖離はあります。その差額について、保護者負担にするのか、市費にするのかにつきましては、現在、予算査定を組んでいる中であり、市の総事業費にも関わってくることになりますので、その査定の中で決めていくという方針になつております。今現在決まっているものは何もないという状況でございます。

あと、学校関係については、この後の協議会で説明する予定にしており、そちらで詳細は説明させていただければと考えております。

**碓井教育長職務代理者** 学校施設関係は、この場では特にないということですか。

**上條学校教育課長** 今回、公共施設マネジメント課で全ての公共施設のあり方についてアンケ

一トを行った趣旨からしますと、委員おっしゃるとおり、何かしらのアクション、教育現場でも考えていかなければいけないとは考えております。新年度、何ができるかということも含めまして、後の協議会で説明させていただければと考えております。

**碓井教育長職務代理者** 給食の無償化については、塩尻市はそのような方向で行くということでおよしいのでしょうか。

**上條学校教育課長** 国のほうで先行しているのが、無償化という表現を使っておりますが、文部科学省からは、無償化というよりも保護者の抜本的な負担軽減。要は、給食費に対する経済支援をしていくという言葉に変わってきておりますので、そのような中で、塩尻市として、給食費の一部負担軽減支援にするのか、完全に無償化できるのかということも含めて、今現在検討をしているという状況でございます。

**碓井教育長職務代理者** では、希望を申し上げてよろしいですか。できるだけ無償化の方向で行っていただくのがいいと思いますけれども、給食の質、量等を確保しながら、保護者負担が少なくなるようにお願いできればという希望を持っておりますので、よろしくお願ひいたします。以上です。

**佐倉教育長** また協議会のところで、先ほどの月割りの算出の仕方とか、そこら辺の確認と、学校再編も含めて、公共施設の関係のところで、また協議会のほうでお願いしたいと思います。

**齋委員** 続けてよろしいですか、病後児保育のはぐはぐの件です。来年9月にはぐはぐが終了するということで報道されました。その反応というのは幾つかありましたか。教えてください。

**塩原保育長** はぐはぐの詳細につきましては、この後の協議会で御説明させていただく予定ですけれども、報道について、こちらのほうには、市民の方からの何か反応というのは届いていない状況でございます。

**齋委員** 今まで使っていた施設を、ゼロ歳児の受入れをする方向でいるわけですか。

**塩原保育長** そのあたりの詳細については、協議会のほうで御説明させていただければと思います。

**佐倉教育長** そのほかについてはよろしいですか。ありがとうございました。

## ○報告第1号　主な行事等報告について

**佐倉教育長** では、続きまして報告事項に移ります。報告第1号、主な行事等報告についてお願いいたします。資料は1ページから7ページです。それでは、事務局より主要な行事について、説明をお願いいたします。

**矢澤市民交流センター長(図書館長)** それでは、図書館と市民交流センターの分をまとめて、私のほうから御報告させていただきます。まず、1ページ上段から御覧ください。

8月1日から11月30日に行いました、めざせ全館制覇！！「塩尻市立図書館カード」をあつめよう！です。市内各図書館、分館と本館を含めまし9館分に、それぞれのオリジナルデザイン、地域の特色を表したデザインのカードを置きまして、本を借りてくださった方に配りました。それを全部集めた方には、本館で、えんぱーく15周年記念で作成しました特別仕様のステッカーとレアカードをプレゼントするという企画で行いましたところ、延べ人数で2,667名のカードをお渡しすることができ、全館制覇された方も97名いらっしゃいま

した。また、カードを集める趣味の方もいらっしゃるようで、県外からの問合せも2件ございました。今回、カードで行ったところ好評でしたので、来年度は、一般の文化施設等とも連携しながら、規模を拡大しながらやっていけたらと思っております。

1ページ一番下の段ですけれども、11月8日、よしむらめぐギャラリートークということで、贊川在住の絵本作家よしむらめぐさんによるギャラリートークを開催しました。よしむらさんの作品展を11月1日から30日に行いました、それに合わせて企画をいたしました。ギャラリートークは申込み制ではなかったのですけれども、贊川在住の絵本作家ということもあり、地元の方の参加が多くありました。16名の参加をいただき、同時開催しておりました贊川地区の企画展示も大変好評をいただきました。

2ページ目に参りまして、下の段、11月9日、哲学対話イベント「w a c c o 2025 てつがくたいわ」、2回目の開催となります。この会は、太陽のコート、図書館の児童コーナーのところで開催いたしまして、小学校3年から中学3年の生徒を対象に、信州大学の学生と一緒に哲学対話を実施するということで行いました。人数は3名となりましたけれども、大学生と一緒に対話をすることで、今回のテーマ「きれいなものは、なぜきれいなの？」ということで行いました。太陽のコートで行うことで、周りの方たちにも見ていただき、開放的なところで話がよりスムーズに広がっていけばということで行いました。様々な哲学対話をすることで、改めて、みんなで意見や考えを共有できることの大切さを感じてもらえたのではと考えております。

3ページ目、上の段でけれども、11月15日、しおじりまちづくりフェスティバル2025を開催しました。市民交流センター3階を使いまして、800人ほどの参加者をいただきながら開催いたしました。市内外で活動する市民公益活動団体の交流を促進し、情報・スキル・ノウハウの共有を図ることで、活動を一層活性化させる。また、参加団体の日頃の活動を広く一般の皆さんにも周知することで皆さんのが活動を知っていただいて、参加していただける方たちを募れるような形のフェスティバルとなっております。当日は、えんぱーくピクニック、えんぱーく前の県道の歩行者天国も同時に開催していただくことによって、より多くの方に来ていただきました。来年も引き続き開催していきたいと考えております。周知をしっかりと、来年も多くの方に来ていただけるようにしていきたいと考えております。

下段でけれども、11月16日日曜日、信州しおじり本の寺子屋、正津勉さん講演会「谷川俊太郎メモラビリア」を開催しました。60の方に参加していただきました。正津勉さんは、生前の谷川俊太郎さんととても親交が深かったということで、昨年、谷川俊太郎さんが亡くなられたことを受けまして、お呼びしました。小津勉さんが谷川俊太郎さんの詩を幾つか朗読してくださるなど、参加していただいた方には、また読んでみたくなりましたということでお話をいただいてございます。

4ページ目中段、11月23日日曜日、中学生・高校生ビブリオバトル2025長野県大会ということで、実行委員会と共に共催で行いました。中学生・高校生を対象としましたビブリオバトルの全国大会の長野県予選となっており、バトラーは16人で、それ以外の閲覧者も数十人来る中で開催し、中学部門には、市内4校から6名が参加し、広陵中学校の生徒が全国大会の代表に選ばれました。

下段です。11月25日火曜日は、えんぱーくDVD鑑賞会「美女と野獣」ということで、3階の多目的ホールにおいて開催しました。市民団体「図書館シネマ俱楽部」の皆さんのが

力のもと、シニアの方たちにえんぱーくに来ていただけるように、また、図書館所蔵のDVDを知っていただけるようにということで開催しております。52名の方に参加していただきました。スタートから14年目を迎え、今年も多くの方に来ていただいておりました。シニア向けということもあり、冬場を避けて開催しており、今年度最後の鑑賞会となりました。来年度は15周年として実施する方向で検討しております。初めて来られた方ですとか、今まで図書館を使ったことが無い方に対して、積極的なPRを今後もしていきたいと考えております。

5ページ目に参りまして、上段、11月27日木曜日ですけれども、正しい発声でイキイキ元気！シニア向けボイストレーニング講座を、信濃毎日新聞松本専売所の協力の元、初めて開催しました。ボイストレーナーの先生をお呼びして、午前・午後と2回に分けて講座を行い、トータルで93名の方に参加をしていただきました。参加者アンケートでも、とにかく楽しかったですか、開催時間がもっと長くてもよかったですということを言っていただきました。かなり需要もあるのだなということも分かりましたので、継続開催も検討しながら進めてまいりたいと考えてございます。

下段、11月27日木曜日、ビジネス情報相談会ミニセミナー「Instagramビジネス活用入門講座」は、長野県のよろず支援拠点と連携し、ビジネス情報相談会を月に3回、そのうち1回行っているミニセミナーとしての開催になります。参加者は13名ということで、SNS関連のミニセミナーは興味のある方が大変多く、定員10名に対して13名の申込みがございまして、定員を増やし13名で行いました。個別の相談会に申し込んでいただけた方もその中からいたということで、さらに広がっていけばと考えております。

6ページ目に参りまして、下段ですけれども、11月30日日曜日、地元映画監督による作品「インターフェイス」上映会＆トークショーを開催しました。多目的ホールで行いまして、松本市在住で塩尻市在勤の映画監督による作品の上映会と、映画監督による作品の解説やメーキング映像を使った制作秘話を聞けるトークショーも行い、76名の方に参加していただきました。初めての開催でしたが、地元の監督だったこともあり、好意的な感想を多くいただきました。この監督は、塩尻市立図書館を映画制作にあたり活用していただいていまして、映画の中でも図書館で借りた本が映っていたりすることもあり、お礼をしに来ていただいたことの縁から、この映画上映会につながりました。映画監督になることが夢という生徒も参加されていて、学校だけでは情報が得にくい進路の話などを直接聞けてよかったですなどという感想もいただきました。

7ページに参りまして、下段ですけれども、12月7日、信州しおじり本の寺子屋、矢沢健太郎さん講演会「小さな巨人 武満徹ー作曲家として、文章家としてー」を開催しました。57名の参加をいただきました。信濃毎日新聞で連載記事「音の河へ～武満徹 信州で紡いだ調べ～」を執筆されておりました矢沢健太郎さんを講師に招きし、信州にゆかりの世界的な作曲家、武満徹の曲を聞きながら、「世界のタケミツ」と呼ばれている理由についてや、県内での創作活動の様子や、文章家としての姿について知ることのできる講演会となり、大変好評をいただきました。私からは以上となります。

**古畠文化財課長** 私からは2件、まず1ページの中段ですけれども、自然博物館の講座、11月1日と8日の2週に開催しましたけれども、おもちゃ工房のおもしろ科学実験ということで、松本市在住のおもちゃ作家矢野憲司さんによる子ども向けの科学実験講座を開催いたしま

した。こちらの方は木曾おもちゃ美術館の学芸員を務められておりますが、元エンジニアということで、いろいろなからくりをおもちゃの中に仕込んであります。その不思議な動き等が非常に子どもたちの興味をそそったということで、1回目の1日には21人、2回目の8日には31人ということで、合計52人の参加がありました。

次、6ページになります。上段の短歌館企画展スペシャルデー「太田水穂の『手紙の巻物』公開」ということで、11月30日に開催をいたしました。こちらは太田水穂が奥さん四賀光子に宛てた手紙、婚約してから結婚するまで6年間、別々に暮らしていた期間に太田水穂が四賀光子に送った手紙、これを四賀光子が全て巻物にして、1年分を1巻きにして、合計6年間ですので6巻、そのうちの1巻を展示しました。大体長さにして約30メートルのボリュームだったということで、ふだんはなかなか見られないものが見られて、太田水穂の四賀光子に対するいろいろな感情を感じることができたということで、非常に来館者は感激をしていました。ほかにもハーブティーやお菓子を楽しんだり、筆ペンの習字の講座も同時に開催しました。1日だけだったものですから12人という少ない人数でしたけれども、今後はもう少し日数を延ばしてやればいいかというような感想も出ました。私からは以上です。

**上村交流文化部次長（社会教育スポーツ課長）** 2ページへお戻りいただきまして、上段、塩尻市民洋楽舞踊フェスティバルでございます。こちらにつきましては、塩尻市芸術文化振興協会に所属する10団体により幅広いジャンルのダンスを発表していただきました。参加者約1,100人でございましたが、有意義な発表となりました。

続いて4ページ上段、短歌の里みである記でございます。こちらは広丘小学校で開催をしておりまして、広丘小学校周辺の歌碑や短歌館、歌人ゆかりのスポットを広小の6年生のガイドで巡りました。子どもたちのガイドは参加者にとても好評で、勉強になったなどの感想を頂き、短歌を通じた交流をすることができました。なお、こちら6年生の保護者約100人と一般の参加者10人に参加をいただいたところでございます。

続いて、7ページ上段、豊かな心を育む市民の集いでございます。こちらは毎年、國の人権週間に合わせて開催しているものでございます。今年度は2部制で行いました。1部では人権擁護委員紹介、中学生人権作文コンテストの表彰及び朗読発表、人権の花運動協力学校への感謝状の贈呈、2部では「人生を豊かにする秘訣は多様性」と題し、落語家の露の団姫さんによる落語及び講演会を行いました。人権尊重社会及び男女共同参画社会の意義や重要性について参加者に知っていただくことができました。以上です。

**佐倉教育長** 今の報告に対しまして、委員の皆さんから御質問、御意見がありましたお願いいたします。

**八島委員** 何点かあります。まず3ページの上段、しおじりまちづくりフェスティバルへの参加者800人と記載があります。参加者が多い場合の駐車場確保はどのようにされていますか。そういうったときには臨時駐車場とかを設けているかなというふうに思うのですけれども、大体どのくらいの人数を超えると、臨時駐車場を確保されますか。

**矢澤市民交流センター長（図書館長）** ありがとうございます。1日、朝から夕方まで800人ですので、市営駐車場で対応可能でした。また、普段でも多くの方が来館してくださっているため、市営駐車場で500台以上確保できている部分と、あと、西側の駐車場と北側にも駐車場が数十台ございますので、その中でほぼほぼ対応できるような人数にはなっています。

**八島委員** 分かりました。ありがとうございます。続いて、4ページの上段ですが、11月18

日の短歌の里みである記ですが、保護者 100 人の参加記載がありますが、先日コミュニティ・スクールの会議に参加させていただいた際、教職員より、日々余裕がなく授業の準備をはじめとして、様々な企画をつくり上げることが、中々困難であると言った話がありました。課外活動についても、地域の方たちに支援していただきたいとご意見もうかがっております。今回このような取組のように行行政のイベントに小学校の活動をタイアップさせていく企画も、検討されてもよいかと感じました。運動会なども簡素化されておりますので、地域と合同で実施するなど、多くの地域でも地区運動会を廃止してしまわれている現状もあります。大変イコール廃止と言った考えよりも、学校行事と一緒にしていく方向にシフトできるとよいのではないかと思います。今後、活動の輪が広がって行くことを願っております。

最後に 1 点、豊かな心を育む市民の集いへ、碓井職務代理と参加させていただきました。中学生の人権作文コンテストの朗読発表を拝聴いたしました。みんなが生きやすい明るい社会といったテーマで、中学生女子が発表されました。人権を大切にしていくこと、自分と違う存在を認め合いたいと堂々とした心に響く作文でした。

不登校を 1 年間研究して参りましたが、自分を出せる場所、相互尊重ができることが大切なことであると思います。大人文化や教師文化といった、隠れルールがあります。忖度をしていくような同調社会や、扱いやすい子どもをつくるための、大人の隠れたルールを学校教育の中から見直す大人の姿勢が不登校を減らすことにつながると思います。不登校の子どもや障がいを持っている子どもが真ん中にいることができる、そして一緒に育んでいけるような学校社会になることが大切であると、改めて中学生の作文の朗読発表を聞きながら感じました。以上です。

**佐倉教育長** ありがとうございます。

**碓井教育長職務代理者** 今の豊かな心を育む市民の集いについて、八島委員に付け加えさせていただいてお願いしたいと思います。第 1 部については八島委員がお話しされましたので省略させていただきます。第 2 部で、落語家で僧侶でもある方が落語と人権講演会をしてくださったのですが、やはり落語家なのでとても上手にお話しされて、教育長も閉会行事のときにおっしゃいましたけれども、話し方がプロですので、すごいなというふうに私も思いました。その方のお話の中では、区別と差別の違いについてや、相手の気持ちに立つ優しさ、慈悲の気持ちというような内容が私はとても印象に残りました。

直接この会とは関係ないのですけれども、しばらく前から信濃毎日新聞の投書欄に市内の中学生の書いた言葉の使い方等について考えた文章が時々載っています。最近載った文には、言葉には意味があり、人に言われてうれしい言葉や嫌な思いをするような言葉もあるので、言葉の使い方は考えなくてはいけない等が書かれていました。同じような内容での投書が時々載ってくるので、どこかの学校で取り組んでいるものかというふうに推測するのですけれども、中学生の考え方を学ばせていただくとともに、心強い取組を市内の中学校でされているなど、そんなことを思っていつも拝見させていただいております。豊かな心を育む市民の集いに関連して最近感じたことを申し上げました。

もう 1 点、2 ページの 11 月 9 日の市民洋楽舞踊フェスティバル、ダンスフェスティバルに関連してですけれども、私、当日、キッズダンスボックスと塩尻ダンススクールの発表を中心拝見させていただきました。両グループともヒップホップ系というのでしょうか、ストリート系というのでしょうか、今流行のキレキレの踊りを見せていただきました。資料にも

書いてあるのですが、会場にも大変大勢の方が入っておられて、ステージと一体になって盛り上がりがありました。私自身もそういう雰囲気を味わうことができましたし、また、流行を知るというか、時代の変化を感じるというか、そういうことも含めていい時間になったなと思いました。感想ですが、以上です。

**佐倉教育長** ありがとうございました。そのほか、よろしいですか。ありがとうございました。

それでは、次に進みます。

### ○報告第2号 1月の行事予定等について

**佐倉教育長** 報告第2号、1月の行事予定についてお願ひいたします。資料は8ページです。全員に関わるものとして、5日に新年祝賀交歓会がありますので、御都合がつきましたら御出席をお願いします。続きまして、23日に教育委員視察研修があります。29日に定例教育委員会がありますので、皆様の御出席をお願いいたします。また、10日にしおじりこども・若者意見ひろば、25日にこども絵画造形教室エカキッズ、31日に先ほども話題がありました塩尻市探究型キャリア教育アワード発表会が開催されますので、御都合のつくところがありましたら御参加をいただければと思います。

ここに関わって、御質問ありましたらお願ひいたします。よろしいですか。

それでは、次に進みます。

### ○報告第3号 後援・共催について

**佐倉教育長** 報告第3号、後援・共催についてです。資料のほうは9ページから10ページです。見ていただきまして、委員の皆さんから御質問、御意見がありましたらお願ひいたします。

**齋委員** 111番と115番なのですけれど、事業の名称とかも一緒なのですが、これはどういうことなのでしょうか。

**上村交流文化部次長（社会教育スポーツ課長）** こちらに関しましては、111番、115番、開催日程が、2日間か1日かの違いなのですけれども、事務手続上、最初111番を受け付けて、その後に12月7日はやめますという変更がありました。番号をその都度、変更があるごとに取っているものですから、結果としては同じものなのですけれど、事務手続上、変更も番号を取っているというものです。ございます。

**齋委員** では、開催は6日だけですか。

**上村交流文化部次長（社会教育スポーツ課長）** そうです。

**碓井教育長職務代理者** 10ページの46番、12月8日愛着形成講座について、松本コアビリーフセラピスト協会というところが主催ということなのですけれども、この協会は子育て支援等に関係する団体なのか、その辺、もう少し教えていただければというふうに思います。

**上條学校教育課長** 団体の趣旨としましては、子育て中の保護者が持つ基本的な信念を見直す中で、ネガティブな信念を修正して、自己肯定感や精神的な健康を改善し、健全な愛着スタイルを確立することを目的としている団体という形になっており、愛着形成を肯定感など、保護者、特に小さいお子さんを抱えているお母さんたちに向けて肯定感の向上であったり、精神的な健康を求められるような対人関係など、そのような改善をしていきたいということで設立されている団体になっております。

**佐倉教育長** よろしいですか。

**碓井教育長職務代理者** はい、分かりました。

**佐倉教育長** 続いて、いかがでしょうか。よろしいですか。

それでは、次に進みます。

#### ○報告第4号　学校運営協議会委員の解任及び任命に係る専決処分報告について

**佐倉教育長** 続きまして報告第4号、学校運営協議会委員の解任及び任命に係る専決処分報告についてですが、資料は11ページから12ページになります。事務局から説明をお願いいたします。

**上條学校教育課長** それでは、11ページの資料No. 4を御覧ください。学校運営協議会委員の辞任申出書及び推薦書が学校より提出され、委員の解任及び任命について教育長専決により決定しましたので報告するものでございます。

教育長専決日は、令和7年12月1日であります。

任命委員の任期は、前任者の残任期間であります令和8年3月31日までとなり、今年度の学校運営協議会委員数は、前回報告させていただきました5月時点より1名増の314人でございます。

なお、解任及び任命委員につきましては、5の一覧表のほうを御覧ください。説明は以上となります。

**佐倉教育長** 委員の皆様から御質問、御意見がありましたらお願ひいたします。よろしいですか。

それでは、御報告のとおり御承知おきください。

#### 4 議事

#### ○議事第1号　塩尻短歌館管理規則の一部を改正する規則

**佐倉教育長** 続きまして、議事に入ります。議事第1号、塩尻短歌館管理規則の一部を改正する規則ですが、資料は13ページから16ページになります。事務局より説明をお願いいたします。

**古畠文化財課長** それでは議事第1号、塩尻短歌館管理規則の一部を改正する規則でございます。改正の理由としましては、塩尻短歌館条例を改正することに伴い、必要な改正をするものです。

改正の概要につきましては、施設の使用時間を変更するものです。

施行日につきましては、令和8年4月1日から施行するものです。

それでは、次に14ページを御覧ください。改正の内容ですけれども、これまで短歌館につきましては、館内の展示資料の閲覧ということで、こちらのほうが午前9時から午後4時30分まで、そのほかに会議室の使用としまして、貸館ということで使用する場合には午前9時から午後8時30分までという区分がございましたけれども、実際会議室の使用につきましては、閲覧の時間と同じ午前9時から午後4時半の間で全て行われております、夜間の使用というのは、これまで実績がございませんので、こちらのほうを廃止しまして、短歌館の開館時間は午前9時から午後4時半までということで統一をするというものです。

また、会議室につきましても、これまで会議室のみということでありましたけれども、

和室と会議室と、この区分が2つございます。時間につきましては、まず午前9時から12時までの時間と午後1時から4時半までという、この2つの区分とするものでございます。私からは以上です。

**佐倉教育長** 委員の皆様から御質問、御意見がありましたらお願ひいたします。

**碓井教育長職務代理者** 会議室の使用について、今まで夜間の貸出しへはしないということで、一般的にはそういう実績からしていいかと思いますけれども、この会議室はたしか夏には広丘児童館が使っていたかというふうに思います。児童館については4時半というような形でよろしいのかどうか。また、それについては教育委員会が必要と認めればいいというような形になってはいますので、そこに適用されるのかどうか、その辺を教えていただければと思います。

**古畠文化財課長** 児童館としての利用につきましては、今回の貸館というものの適用ではなくて、あくまでもその後の時間、今年度行った時間をそのまま、また今後も適用するということで、主な理由としましては、現在、短歌館の職員が会計年度任用職員ということもありまして、鍵の施錠の関係が事務室の中からセコムの警報装置の設定をするということになるものですから、通常、その鍵を貸し出して使用をしていただく場合には、事務室に入らなければいけないということで、こちらのセキュリティの関係もありまして、そういう夜間の使用をやめにしたということがありますけれども、児童館の場合は、児童館の職員の方がその時間そこにいてもらって、最後施錠してもらうという、これはあくまで職員同士のやり取りになるものですから、児童館の利用につきましては、今回のこの適用には当たらないということでお願いいたします。

**碓井教育長職務代理者** 分かりました。

**佐倉教育長** そのほか、いかがでしようか。よろしいですか。

それでは、採決いたします。議事第1号につきましては、原案のとおり決することによろしいでしょうか。

[「異議なし」の声あり]

**佐倉教育長** 異議なしと認め、原案のとおり決することといたしました。

## ○議事第2号 学校職員の指導上の措置について<非公開>

**佐倉教育長** 続きまして、議事第2号は個人情報を含むため、非公開といたしますが、御異議ありませんでしょうか。

[「異議なし」の声あり]

<非公開部分削除>

**佐倉教育長** 議事第2号につきましては、以上となります。非公開を解いて次に進みます。

それでは、本日予定されていた案件は以上ですが、そのほか委員の皆様から何かありましたらお願ひいたします。

**上條学校教育課長** 先ほど回答を先送りさせていただきました黄色い帽子の配布状況になりますが、昨年実績では本年の5月1日時点で新1年生445人に対し、昨年の申込み自体が443人であります。この数字については、転入転出の関係があろうかと思っておりますが、おお

むね 100% 近い数となっております。

また、スマホの所有割合になりますが、県で調査をしたものが令和5年度にございます。その状況ですと、中学1年から中学3年まで、個人で持っている、もしくは親などと共有している割合になりますが、3学年の平均では、大体七十五、六%ぐらいになっております。以上です。

**委員** ありがとうございます。

**佐倉教育長** そのほか、委員の皆様から何かありますでしょうか。

**委員** 1つだけ、いいですか。もう終わってしまったのですけれど、さっきのスピード違反の先生がいたではないですか。例えば累積して免許取消しみたいになつたら、罪状というかは違ってくるわけですか。

**上條学校教育課長** 後ほどお答えさせていただきます。

**佐倉教育長** では、また後ほどお願ひいたします。

そのほか、委員の皆様からよろしいですか。

それでは、事務局から何かありましたらお願ひします。

**上村交流文化部次長（社会教育スポーツ課長）** 1点、御報告をさせていただきたいと思います。塩尻市文化会館改修事業の件で、先週12月18日に設計・施工者の選定の公募型プロポーザルのヒアリング審査が行われまして、審査の結果、最優秀者が決定をしました。最優秀者は今後、優先交渉権者として契約に向けた協議を進めていくことになりました。

なお、最優秀者は青木あすなろ・ヤマウラ共同企業体でございます。まだこれは契約することが決まったわけではなく、優先交渉権者として提案内容が評価されたという現状です。今後、契約に向けた詳細を詰めまして、協議が整いましたら仮契約を結ばせていただいて議会に上程するというスケジュールになってございますので、御報告をさせていただきます。

なお、議会に諮る期日につきましては、まだ詳細未定でございますが、3月の定例会を待たずに、2月の上旬に契約が整いましたら臨時会を開催させていただく予定をしてございます。以上です。

**佐倉教育長** この件に関わっていかがでしょうか。

この件は、委員の皆様への報告ですけれど、今、会社名のほうが出ましたが、公開は。

**上村交流文化部次長（社会教育スポーツ課長）** 実は本日の市民タイムスの塩尻版に少しその記事が掲載されてございますが、昨日の市長の記者会見で、市長が今の情報をマスコミ向けてお伝えをさせていただきました。正式にはホームページで公表することとなつてございますが、予定では2月頭ぐらいを予定していたのですけれども、年明けできるだけ早めに公表はしたいと思います。公表内容としては、これにプラスして評価者の合計の点数と参加者数、あと、次点者の点数が公表される予定です。

**佐倉教育長** 今の部分についてはもう公表されているので、配慮は大丈夫だということでおろしいですね。

**上村交流文化部次長（社会教育スポーツ課長）** あくまで、契約がまだできたわけではないですけれど、評価として、最優秀者が決定したということでございます。

**佐倉教育長** では、そのように御承知おきいただければと思います。

そのほか、事務局からよろしいでしょうか。

## 5 閉会

**佐倉教育長** それでは、以上をもちまして、12月定例教育委員会を閉会いたします。ありがとうございました。

○ 午後3時15分に閉会する。

以上

令和8年1月29日

署名

教育長

---

同職務代理者

---

委員

---

委員

---

委員

---

記録職員 教育総務課  
教育企画係長

---